

新・中医臨床カンファレンス

【症例提示】

～萎縮型加齢黄斑変性症による眼精疲労・便秘・嚙みしめ～

2024年1月29日（月）

二子玉川 鍼灸サロンvvB

島田りか

症例

- ・ 50歳代 女性 初診 **X-1年8月**
- ・ 主訴：眼精疲労・視力低下・便秘・寝ている間の噛みしめ
- ・ 現病歴：萎縮型加齢黄斑変性症
目の疲れがあり、ひどくなると頭痛になる。
- ・ 既往歴：チョコレート嚢胞あり 中腕・左小腹あたりが痛い
虫垂炎オペ痕あり
- ・ 自覚的不調：花粉症の時期に鼻水やくしゃみがある
舌の力が脱力しない（舌根）
口の中の渇き
- ・ 内服薬：小青竜湯・酸化マグネシウム

最近の生活

- ・ X年7月 広島のお父様、前立腺癌が発覚し、実家に帰る機会が多くなった。飛行機で帰ってくる時に、右の耳の中が痛くなり、次の日からうがいすると出血を認め、**10日**ほど続いた。
- ・ X年9月 耳鼻科に行き、アレルギー検査をした。アレルギー（-）血管運動性鼻炎と診断され、同じような症状の人に多く効果があるとのことで小青竜湯と酸化マグネシウム処方。その後、便が兎糞状になり、今に至る。
- ・ X年11月 宅建の試験受験

身体所見

- ・ 身体所見：161cm、48kg、BMI18.5
- ・ 舌診：舌端紅 ひび割れ
- ・ 脈診：沈・細
- ・ 面色：青に近い黒っぽさがあり
- ・ 生理状態：一年前に閉経したが、生理の時期あたりになると
帯下が粘っこくなる感じあり
- ・ 小児期：手指足指にしもやけができてパツクリ割れていた
消化が上手くいっていない感じをもっていた
- ・ 治療について：鍼は苦手、響きは、さらに苦手
お灸や、マッサージは、好き

舌写真

